










# 支出命令書 (一般)

市長 **	副市長 **	教育長 **	部長 **	次長 **	課長 	課長補佐 	係長 	担当者 
会計管理者 	会計課長 	課長補佐 **	係長 	担当者 	入力 	財政課合議 **	検収者	


起票日	令和 7年 9月 8日	所 属	080100 市議会事務局
年度	令和 7年度	会計	01 一般会計
予算区分	0 現年度		
科 目	款	01 議会費	
	項	01 議会費	
	目	01 議会費	
	事業	040000 議会調査研究事業	
	節	18 負担金、補助及び交付金	
	細節	90 その他	
	細々節	06 政務活動費	

金額	26,380円	控除	所得 税	0円	タイムカード(出勤簿)確認
支払回数	13回		雇用保険料	0円	源泉徴収確認
負担行為額	600,000円		その他	0円	被服貸与台帳記載確認
支出命令済額	257,470円		控除額合計	0円	通勤経路及び金額確認
負担行為残額	342,530円		請求書番号		
源泉支払内容	*****				

件名 10/9~10/10、栃木県宇都宮市 第87回全国都市問題会議参加負担金及び振込手数料

摘要 野田議員、井上議員


債権者等	支払方法	21 現金払	支払希望日	令和7年 9月17日
	住所			
	名称	市民未来の会代表者 野田 悦子		
	役職等/氏名			
	銀行/口座			
	口座名義人		債権者番号	

領収住所		領収印	
氏名	市民未来の会代表者 野田 悦子		

上記の金額を領収しました。 令和7年 9月17日

支払済
-----









令和7年 9月 日  
泉大津市 会計管理者 あて

支出負担行為 確認


001  負担行為番号  
07-000297  
伝票番号  
07-009616 呼出番号  
整理番号  
07-000004-13 00702783



07 01 01-01-01 04-00-00 18-90-06


供	議長	副議長	局長	次長	次長補佐兼 議事調査係長	庶務係長	主査	係員
覧								

別記様式第5号 (第4条関係)

政務活動費交付請求書

令和7年9月4日

泉大津市長  
南出 賢一 様  
(泉大津市議会議長経由)

会派名 市民未来の会  
代表者名 野田 悦子 

政務活動費交付請求書

泉大津市議会政務活動費の交付に関する規則第4条の規定により、下記のとおり政務活動費を請求します。

記

交付請求額	26,380円		
内 訳	10/9~10/10 栃木県宇都宮市 第87回全国都市問題会議 参加負担金(13,000円×2名分) 及び振込手数料		
支払先	(株)JTB		
予算科目	研究研修費	交付残額	342,530円
使用者名	野田 悦子、井上 信久		

令和7年8月29日

## 請求及び受領委任状兼口座振替依頼書

第87回全国都市問題会議 参加者各位

(委任者) 住所 栃木県宇都宮市旭1丁目1番5号

氏名 第87回全国都市問題会議実行委員会 会長 佐藤 栄十

下記の参加費に係る請求及び受領につきまして、次のものに委任します。

(受任者) 住所 栃木県宇都宮市池上町4-1 東栄ビル4階

氏名 株式会社JTB宇都宮支店 支店長 鹿野 英克

●参加費 第87回全国都市問題会議参加費 お一人様 ¥13,000- (不課税)

なお、請求金の支払いにつきましては下記の口座に振り替えてくださいますようお願いいたします。

銀行名	銀行	支店名	支店	預金種別	9. その他 ( )
口座番号					
(カナ) 口座名義					

だいしんキャッシュサービス  
ご利用明細票

本日はご利用いただきありがとうございます。  
ご利用明細票をご確認のうえ、お持ち帰りください。  
裏面もご覧ください。

お取引日		取扱金庫・店番・通番	
07 09 17		16300744-0573	
お取引店		口座番号	
お取引金種		万円 2 5千円 1 千円 1 500円 0 100円 3 50円 1	
お取引内容		振込 2千円 0 10円 3 5円 0 1円 0	
手数料	¥380	ページ	お取引金額
時刻	13:25		¥26,000*
説明コード	お取引後残高		
	*****		

銀行  
支店

お受取人

ご依頼人

イスマオオツシキカイ ノダ イノウエ  
様 0725-33-1131

印紙税申告納付  
税務署承認済

大阪信用金庫

# 開催要領

## 1. 主催者

【主催】 全国市長会、(公財)後藤・安田記念東京都市研究所、(公財)日本都市センター、宇都宮市

【協賛】 (公財)全国市長会館

## 2. 開催日時・会議の内容(日程 4ページ、講師略歴 5、6ページ)

【第1日】 令和7年10月 9日(木) 9:30 開会 (受付開始 8:30)  
基調講演、主報告、一般報告

【第2日】 令和7年10月10日(金) 9:30 開会 (開場 8:30)  
パネルディスカッション、行政視察(事前申込者のみ・有料)

## 3. 開催場所(会場アクセス 7ページ)

ライトキューブ宇都宮

〒321-0969 栃木県宇都宮市宮みらい1-20 TEL:028-611-5522

## 4. 議題(議題解説 8ページ)

「成熟社会の都市のかたち ～コンパクトで持続可能なまちづくり～」

## 5. 会議参加費

1名につき 13,000円

※ 1日目の昼食弁当代、会議配布資料代等を含みます。

※ 会議参加費は、事務局に代わり運營業務委託会社である株式会社JTBが代行收受します。

※ 9月20日(土)以降に参加を取消された場合は、会議参加費の返金はできません。

※ 悪天候や感染症の影響等により、会議の開催を中止又は開催内容を変更する場合があります。また、その場合も、会議参加費を返金できないことがあります。

※ 会議参加費の領収証は、会議当日にお一人様1枚ずつお渡します。

## 6. 会議の参加・宿泊のお申込み(参加申込方法 14ページ、宿泊のご案内 21ページ)

下記の期間にWEB申込みにより受付します。14ページの申込方法を確認ください。

【申込開始日】 令和7年7月28日(月) 10:00 から

【申込締切日】 令和7年8月 8日(金) 17:00 必着

【結果公開日】 令和7年8月22日(金) 13:00










※ 申込者が定員(1,800名予定)を超えた場合は抽選を行います。

(抽選対象者:市区議会議員(議長及びその随行者は除く)及び議会事務局職員)

※ 随行者についても参加申込みが必要です。

※ 庁内LANのセキュリティ等の関係で参加申込専用ページにアクセスできない方に限り、メールでの受付を行います。(回答は5営業日以内にメールにて行います)

# 支出命令書 (一般)

市長	副市長	教育長	部長	次長	課長	課長補佐	係長	担当者
**	**	**	**	**				
会計管理者	会計課長	課長補佐	係長	担当者	入力	財政課合議	検収者	
		**				**		


起票日	令和 7年 9月 19日	所 属	080100 市議会事務局
年度	令和 7年度 会計 01 一般会計	予算区分	0 現年度
科 目	款	01 議会費	
	項	01 議会費	
	目	01 議会費	
	事業	040000 議会調査研究事業	
	節	18 負担金、補助及び交付金	
	細節	90 その他	
	細々節	06 政務活動費	

金額	74,460 円	控 除	所得 税	0 円	タイムカード(出勤簿)確認
支払回数	14 回		雇用保険料	0 円	源泉徴収確認
負担行為額	600,000 円		その他	0 円	被服貸与台帳記載確認
支出命令済額	331,930 円		控除額合計	0 円	通勤経路及び金額確認
負担行為残額	268,070 円		請求書番号		
源泉支払内容	*****				

件名	10/8~10/10. 栃木県宇都宮市 第87回全国都市問題会議参加旅費
----	--------------------------------------

摘要	野田議員
----	------

債権者等	支払方法	21 現金払	支払希望日	令和7年 10月-7日
	住所			
	名称	市民未来の会代表者 野田 悦子		
	役職等/氏名			
	銀行/口座			
	口座名義人	債権者番号		

領収	住所	氏名	市民未来の会代表者 野田 悦子	領収印	
----	----	----	-----------------	-----	---

上記の金額を領収しました。 令和7年 10月-7日

支払済
-----









令和 年 月 日 泉大津市 会計管理者 あて



001 負担行為番号 07-000297  
 伝票番号 呼出番号  
 07-010369  
 整理番号 07-000004-14 00704924



07 01 01-01-01 04-00-00 18-90-06


供	議長	副議長	局長	次長	次長補佐兼 議事調査係長	庶務係長	主査	係員
覧								

別記様式第5号（第4条関係）

政務活動費交付請求書

令和7年9月19日

泉大津市長  
南出賢一様  
(泉大津市議会議長経由)

会派名 市民未来の会  
代表者名 野田悦子 

政務活動費交付請求書

泉大津市議会政務活動費の交付に関する規則第4条の規定により、下記のとおり政務活動費を請求します。

記

交付請求額	74,460円		
内 訳	10/8~10/10 栃木県宇都宮市 第87回全国都市問題会議参加旅費		
支払先	野田悦子		
予算科目	旅費	交付残額	268,070円
使用者名	野田悦子		

令和7年度

# 出張申請書

(出張)

会派名	市民未来の会		氏名	野田 悦子				
出発・帰庁年月日		出発 令和7年10月8日		帰庁 令和7年10月10日				
出張先(順路) ライトキューブ宇都宮(栃木県宇都宮市宮みらい1-20)								
目的及び用件 第87回全国都市問題会議に参加								
区間	距離	運賃	料金	車賃	宿泊料	日当	食卓料	計
泉大津   (南海本線) なんば	km	円	円	円	円	円	円	円
		490						490
"   (大阪メトロ御堂筋線) 新大阪		290						290
"   (東海道新幹線) 東京	556.4		特急料金 (のぞみ) 5,810					5,810
"   (東北新幹線) 宇都宮	665.9 109.5	(往復割引) 9,000	特急料金 (やまびこ) 3,040	閑散期 △ 200	2泊 30,000	3日 7,000		48,840
"   ( 線) 東京	109.5		特急料金 (やまびこ) 3,040	繁忙期 200				3,240
"   ( 線) 新大阪	556.4 665.9	(往復割引) 9,000	特急料金 (のぞみ) 5,810	繁忙期 200				15,010
"   ( 線) 復路		780						780
"   ( 線)								
"   ( 線)								
"   ( 線)								
"   ( 線)							計	74,460
"   ( 線)								

10月9日の日当については、泉大津市職員旅費条例第23条及び同条例施行規則第4条の規定により支給しない。

主管課用









令和7年度

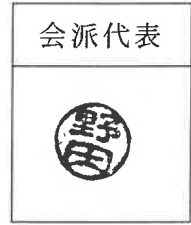
## 領収書兼旅費明細書

(出張)

会派名	市民未来の会	氏名	野田 悦子							
出発・帰庁年月日	出発	令和7年10月8日	帰庁	令和7年10月10日						
出張先(順路)	ライトキューブ宇都宮(栃木県宇都宮市宮みらい1-20)									
目的及び用件	第87回全国都市問題会議に参加									
区間	距離	運賃	料金	車賃	宿泊料	日当	食卓料	計		
泉大津   (南海本線) なんば	km	円	円	円	円	円	円	円		
		490						490		
"   (大阪メトロ御堂筋線) 新大阪		290						290		
"   (東海道新幹線) 東京	556.4		特急料金 (のぞみ) 5,810					5,810		
"   (東北新幹線) 宇都宮	665.9		特急料金 (やまびこ)	閑散期 △ 200	2泊 30,000	3日 7,000				
	109.5	(往復割引) 9,000	3,040							
"   (線) 東京	109.5		特急料金 (やまびこ) 3,040	繁忙期 200				3,240		
"   (線) 新大阪	556.4		特急料金 (のぞみ)	繁忙期 200						
	665.9	(往復割引) 9,000	5,810							
"   (線) 復路		780						780		
"   (線)										
"   (線)										
"   (線)										
"   (線)							計	74,460		
右の金額領収いたしました。				金額	¥	7	4	4	6	0
令和 年 月 日				職名	市民未来の会					
泉大津市会計管理者 殿				氏名	野田 悦子			 印		

□決 裁      ■供 覧

受発記号・番号				收受年月日	令和7年11月11日			
差出 名		野田 悦子						
あて 名		泉大津市議会議長				提出期限		
收受文書の記号				收受文書の日付	令和7年11月5日			
件 名		報告書						
議長		副議長		事務局長		次長		合 議
								
主 管	次長補佐兼 議事調査係長	庶務係長		主査		係員		
								
処 理 上 の 意 見 及 び 注 意 事 項								
<p>日 時：令和7年10月9日（木）～令和7年10月10日（金）</p> <p>出張先：栃木県宇都宮市 ライトキューブ宇都宮</p> <p>目 的：第87回全国都市問題会議に参加</p>								



# 報 告 書

令和7年11月5日

泉大津市議会議長 様

(会派名) 市民未来の会

出張者氏名 野田悦子 

下記により出張しましたので、その概要について報告いたします。

## 記

1. 日 時 令和7年10月9日(木)～10月10日(金)
2. 出張先 栃木県宇都宮市  
ライトキューブ宇都宮
3. 目 的 第87回全国都市問題会議  
テーマ 成熟社会の都市のかたち  
～コンパクトで持続可能なまちづくり～
4. 報告事項 別紙添付

# 報 告

一日目 9日(木)

— 基調講演 —

<人口減少・成熟時代の都市とまちづくり>

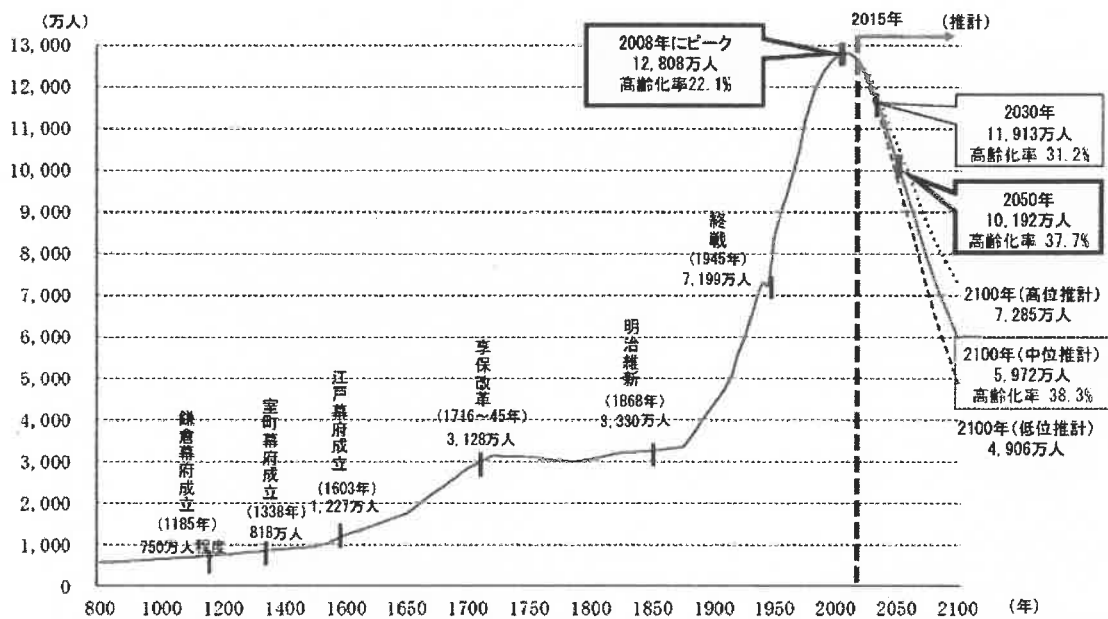
京都大学名誉教授 広井 良典氏

広井氏は大きく3つの視点から講演された。

## 1. 中心市街地再生と商店街の復権

まず最初に、人口減少社会の課題を数値を使って説明。

国土庁・日本列島人口分布の長期時系列分布から



(出典)1920年までは、国土庁「日本列島における人口分布の長期時系列分析」(1974年)、1920年からは総務省「国勢調査」。なお、総人口のピーク(2008年)に係る確  
定には、総務省「人口推計年報」及び「平成17年及び22年国勢調査結果による補間補正人口」を用いた。2020年からは 国立社会保障・人口問題研究所「日本  
の将来推計人口(平成29年推計)」を基に作成。

日本の人口は 1868年(明治維新時)に3,330万人、1945年(終戦時)7,199万人、2010年に12,808万人のピークをむかえるが、人口増加時代のすべてが東京へとむかっている。

また、世界における生活満足度と所得の関係でも、世帯収入のUPによる生活やりくり度が困難な世帯数が減少するからといって必ずしも生活満足度がUPするとは限らない。現に2010年と比べ2019年、2023年と世帯収入は増加し、生活のやりくりが難しい世帯が減っているにも拘らず人々の生活満足度は10点満点中7.2、7.4、7.4とほぼ横ばいである。

では、人々の暮らしの満足には何が必要か。ポジティブ心理学の挑戦

が始まった。経済成長とウェルビーイング（幸福）の仮説的なパターンでは相関関係は弱く、幸福度の規定要因として考えられる●コミュニティのあり方（人と人との関係性）●平等度（所得の分配）●自然環境との関わり●精神的なよりどころ等により大きく振れ幅が変わると考えられる。

無いものを挙げるのではなく、「地域のあるもの探し」へ視点を変え、プラスの価値を引き出し・見つけ・創作することが大事である。

都市への人口流出の大きな原因は大学進学とその後の就職にある。最近の若い世代の「ローカル志向」は時代の流れで、地元大学と地元との結びつきにより地域で活躍の場を学生と共に探し創生するなどローカル人材が重要であり、それらの人々の活躍の場があることも、地域の活性化につながる。

ゆえに、ローカル志向を“内向き”と批判するのではなく、そうした方向を支援する政策が必要である。

## 2. AIを活用した未来シミュレーション

2016年に京都大学に設置された「日立京大ラボ」との共同研究「2050年の日本は持続可能か」というドキッとする文言を出発点とする研究の紹介から始まった。

日本の生活保護世帯数は1995年を谷に上昇を続けている。生活支援が社会保障も整っているかに見える日本だが、先進諸国における社会的孤立は日本が一番である。

AIによるシミュレーションにより、二万通りの未来シナリオ予測と分析を行い、これらの解消には「地方分散型」という方向が鍵であると示された。

## 3. 「多極集中」の国土ビジョン

「地方分散型」は地方都市の中心市街地の再生や「商店街の復権」という方向に繋がる。

1980年代、日米構造協議が行われ、日本はアメリカ的な郊外ショッピングモール型に変わり、地方都市の空洞化につながっていった。

ナショナル⇒グローバル⇒ローカルという順ではなく、ローカリゼーションつまりまずはローカルありきで考えることが重要でグローバル問題は資源やエネルギーと取り合いにいかにか勝つかになってきた。ポストグローバルはローカル⇒ナショナル⇒グローバルではないか。

ヨーロッパのゆったりとした都市中心部の人を中心の街づくりこそ、人として満足度の高い生活をもたらす。

物質・エネルギー・情報・化学・工業などは長い時間軸で見る必要がある。

そうした大きなビジョンをもって街づくりを考え、中心市街地再生、商店街復権、公共交通、若者支援、人口減少対応、社会保障改革などさまざまな公共政策を総合的に考えていくことが求められると締めくくられた。

## — 主報告 —

### <人口減少社会に対応する都市の構造改革

～100年先も発展できる「ネットワーク型コンパクトシティ」の形成～>

栃木県宇都宮市長 佐藤 栄一氏

佐藤市長は宇都宮市の取り組みを以下の順に報告された。

- 宇都宮市の持続可能なまちづくり
- 宇都宮市が目指す NCC とは
- NCC 形成に向けた取組
- NCC を土台とした「スーパースマートシティ」の実現に向けた取組

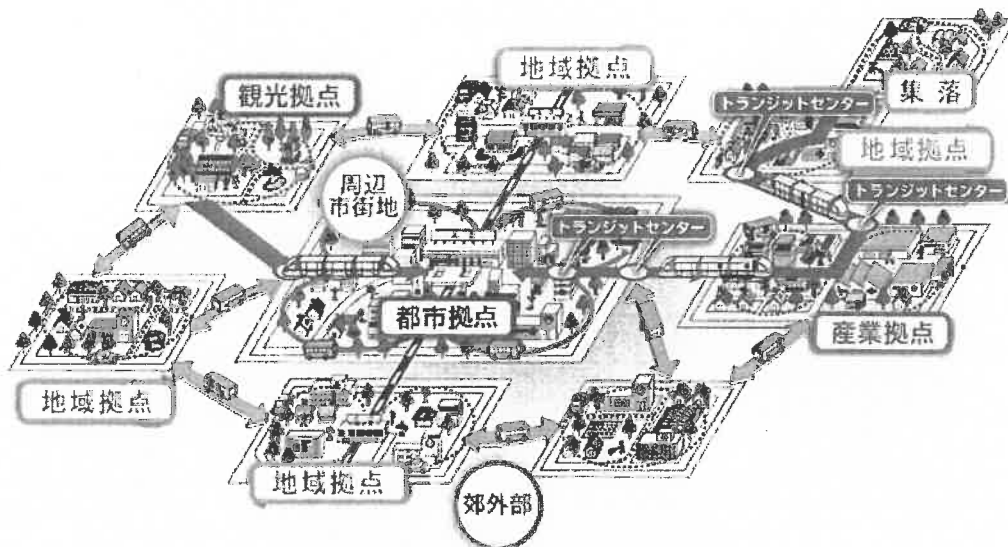
宇都宮市は市域の8割が平坦な土地であることから、人口増加時に郊外へと拡散していったという。それらを中心部に集めることは困難であることから、平成19年に策定した「第5次宇都宮市総合計画基本構想」において「ネットワーク型コンパクトシティ (NCC)」を長期的な街づくりの方向とした。

拡散していった周辺各地域と中心地それぞれの維持・発展を目指す、独自の連携・集約型の都市構造である。

一つはそれぞれの地域特性を踏まえた各種都市機能の集積した拠点化

とそれらを結ぶ交通ネットワークを一体的に進めることである。

【将来都市空間形成イメージ図】「ネットワーク型コンパクトシティ」が形成された場合



一か所に集中するのではなく拠点化するにあたっての問題点の洗い出しは産業拠点への交通量の多さと朝夕の渋滞に着目し鉄道と縦とすれば横串しに中心的なライトラインの整備をし、それを補完するバスなどの交通手段を整備した。また、それぞれにトランジットセンターを設置することで賑わいと利便性両方を担保したまちづくりになるように目指すとし、片側2車線の4車線道路の真ん中2車線をライトラインとその停留所に充てる工事が始まるまでに、NCCの推進に当たっての説明会を1,200回開催し、十分に市民の理解を得る努力をしたという。このライトラインによって5,000台の車通勤を削除でき、郊外の工場では不要になった広大な駐車スペースを利用した新たな設備投資を行うことが可能となり、従業員が増え、企業と住民双方からの税収アップにつながった。また、補完交通手段（地域内交通）の整備により、市内全域にドア to ドアを実現することができた。現在はJR駅西側への延伸に取り組んでいる。

市長は言う、都市交通≠交通政策ではなく、都市交通+福祉と捉え、これらの整備により黒字を目指すのが、福祉を担うと考えれば費用が掛かって当たり前と。

— 一般報告 —

<「縮充」発想による交通施設マネジメント>

東洋大学国際PPP研究所シニアリサーチパートナー 南 学氏

氏は2000年まで横浜市役所に在籍中、市職員による論文集の編集(企画)作業に従事していた経歴を持ち、そこで次の数十年のビジョンを想定するキーワードとして「縮充」という特集を組んだことがあり、「拡充」の時代から「縮小」の時代への変化をネガティブとしてとらえず、縮小しても機能の充実に繋がれば、むしろポジティブな将来像も描けるのではないかと考え生み出したのが「縮充」という造語であるとまず説明された。

建物も生き物であり、長い先の予算・計画は合わないのではないかと。それは目黒区の20年管理費込み400億円の計画に以前であれば多くの手が上がったであろう計画に、20年先の人件費などを考慮すれば見合わないと思わしきものであったことでもわかる。

公共施設の削減を掲げてもなかなか進まないのは、行政の縦割り部局ごとの管理運営と予算執行という構造に問題がある。数十年の長期計画のため年度毎の明確な目標設定がなされず、人事異動も繰り返されるため実質的に「先送り」されたことも要因であろう。

では、いかにすべきか。「包括的施設保守点検」を基本方向として考え、「縦割り構造」を越えることで、「補充」を実現することは可能であり、成熟社会における都市の在り方検討にむ十分に応用可能であると強調された。

— 一般報告 —

<都市縮小時代の持続可能なまちづくり>

—高松・丸亀町に見る都市の再生と自立性—>

香川県高松市長 大西 秀人氏

高松市もバブル崩壊とともに、郊外へと拡散していった市街地は、市の象徴ともいえる丸亀町商店街の衰退は空き店舗20%に迫る状況に陥り、地域経済の衰退とともに街の魅力も低下し、若年層や子育て世代の中心市街地離れが加速する事態であった。

1990年代後半から丸亀町商店街を突破口に地域住民・事業者・行政が連携を取り先進的にまちの将来像を描きなおす取り組みを行い、それがやがて市域全体の都市戦略にも大きな影響を与えていったと紹介された。その中心に、行政でも民間任せでもない『まちづくり会社』を設立し、古いアーケードの天井を高く明るく開放的にした上、イタリアのガレリア広場を模しながら、うどん県の香川を象徴するうどん鉢をひっくり返した形の天井の大きな空間を造った。隣接の「おもちゃ美術館」が民経営・民運営でできるなど、県外からも訪れる人が増え賑わいができている。

これらは、行政が伴走に徹し、民間の意見を計画作成段階から積極的に取り入れた。また、徐々に実現することで段階を経て信頼を得ながら進行してくること、街全体で統一された開発による公共空間を造ることに成功している。広場は座って休める場所を多く構築することも成功のカギとなった。近年加入率の低下で機能が困難になりつつあった自治会に代わり、地域コミュニティ協議会が自主的に運営に関わるために、縦割りの予算を一般財源から自由に使える仕組みにしたことも功を奏した。

現在、ボランティアの芸術士を100ヶ所の保育施設に送り込むなども進めている。

他市へ出ていくことの多かった住民が働きたいと思える企業誘致にも取り組みシビックプライドの醸成にもなっており、他市から羨ましいと思ってもらえる市へと変わってきている。

今後、市民と共に考え、市民と共に創る「共創のまちづくり」を進め、都市縮小時代における「持続可能なまちづくり」を進めると力強く締めくくられた。

## — 一般報告 —

### <次世代交通とコンパクトで持続可能なまちづくり>

早稲田大学理工学術院教授 森本 章倫氏

森本氏は人口減少社会におけるまちづくりを次世代交通システムの視点から報告された。

森本氏は先の宇都宮市長が紹介された「ネットワーク型コンパクトシティ」にも関わられ「人中心の交通システム」の構築を進めてこられた。

宇都宮市の鉄道とLRTで縦横の交通の軸を中心に補完する地域交通をいかに構築するかの課題を「地域主体・自治会発」で波及することで必要なところに必要な規模の交通システムを導入することができドアtoドアの実現が可能となった例を示された。

新しい交通手段・新しい都市の形—ならば→交通手段の変更で街の型の変化が起きることを、提唱された自動運転社会におけるまちづくりの中でより具体的にサイバー空間における情報基盤整備の必要性を説いた。フィジカル空間で持続可能なコンパクトシティを目指しつつ、サイバー空間でICTを活用したスマートシティが各種課題を解決すると説明された。

二日目10日(金)

— パネルディスカッション —

くまちなかの「パブリック・ライフ」の再考

：成熟社会におけるコンパクトな都市を考える上で>

埼玉大学大学院人文社会科学研究所教授 内田 奈芳美氏

内田氏は最初にドイツの移動手段の考え方は移動手段は基本的権利で歩いて移動できる空間（ウォーカビリティ）の必要性を紹介し、日本でも最近よく出るようになったウォーカビリティがまるでぜいたく品ののような扱いだとその差を指摘された。

日本でも都市が生産から消費の場へと役割を変化させ、景観的側面からの不動産価値の最大化、排気ガスによる大気汚染対策などの環境的側面、また観光産業の台頭による空間の回遊性を高めた商業的側面、歩行者増による治安的側面などから都市の在り方を変える必要性が高まったことと人口減少によるコンパクトシティを考える上でもウォーカビリティの考え方が必要とご自身が関わったさいたま市大宮駅周辺地区のアーバンデザインセンター大宮を例に報告された。

街、移動の場だけでない歩く楽しさウォーカビリティを演出する空間にストリートテラスという考え方で、歩道を広げるだけでない取り組み

を紹介された。

考え方の中心は「パブリック・ライフとして人が使いたい空間かどうか」を問いながら開発、変化を進めることが重要。

## <成熟社会における公共交通ネットワークの進化と

### 持続可能性への挑戦>

㈱みちのりホールディングス代表取締役グループCEO

兼 関東自動車㈱代表取締役社長 吉田 元氏

氏は地域交通の持続可能なモデルづくりに取り組んでいる日本共創プラットフォーム傘下のみちのりホールディングスという宇都宮本社の交通・観光業グループの代表である。

これまで、地域連携ICカード totora の配布や、運行路線の上限運賃・乗り継ぎ割引、EVバスの導入、キャッシュレス化、AIオンデマンドバスなどを積極的に導入してきた。その中でバス業界でもDXによる運行管理の高度化が急務であると現在取組を進めている。これらは人員不足にも点呼の正確性や早朝深夜の人員配置など管理者を含む働き方改革や人員不足解消にもつながっている。

今後は自動運転バスの運行も一定区間で目指すなど交通システムのネットワーク化が暮らしの質を左右すると考えている。

## <「いくつになっても」「出かけていけ」「出かけたがたい」都市について思案する>

まちなか広場研究所主宰 山下 裕子氏

まちなか広場研究所主宰の山下氏は出かける折の電車やバスの中でのゲームをプレーし、動画などを観、さまざまなつぶやきをスマホに向かっている人々と、移動中の交通量の多さに戸惑い、一度で信号を渡り切れず、歩道の柵にもたれかかり、座り込む高齢者を多く目にする。

それらの集団の中の孤立と、交通の場でのフレイル機関として介助を道路機能の一環としてできることはないのかと考えたが、言うは易く行うは難しでもある。

それらの解消の事例をいくつも紹介され変化による人生100年時代

の都市の在り方についていつまでも実践を重ねていきたいと締めくくられた。

<歩いて楽しいまちづくり

～公共交通と歩行者中心の持続可能なまちづくり～>

鳥取県米子市長 伊木 隆司氏

古くから人の往来の盛んな「山陰の商都」として栄えてきた米子市のコンパクト・プラス・ネットワークと少子高齢化による社会構造の変化に対応した都市のリノベーションによる持続可能なまちづくりに取り組んでこられた経緯や手法を紹介された。

米子市は郊外に観光拠点があり、まちなかと郊外が一体的に発展するために歩いて楽しいを実現するため、自動車中心から公共交通機関と歩行者中心の空間への転換により、人々が集い、憩い、多様な活動を繰り広げられる場へと変わらせることを目標に国土交通省のまちなかウォーカブル推進事業を活用してJR米子駅周辺の整備や街灯・歩道の美装化などのハードと公共空間の規制緩和や商店街でのイベントの開催支援、官民連携でウォーキングイベントの開催でかたちになってきている。

鉄道と補完する循環型コミュニティバス「だんだんバス」の運行などで移動は公共交通が中心の街を目指してきた。

今後は自動運転バスの実証運行など一定の条件下ではあるが積極的に取り組んでいく。これらは、一朝一夕にはかなわないが粘り強く施策を進めていきたい。

## 所 感

二日間の都市問題会議であるが、私がこの間取り組んできた市域の交通政策と歩行者に優しい移動空間の実現事例を多くお聞きでき充実した会議でした。

一日目の夜に、ホテルに着いたときに高層階のフロントロビーから見えていた黄色い芋虫のような乗り物に興味をわきそれが市長のおっしゃっているNCCの中心の乗り物“ライトライン”と知り、乗車してきました。次世代型路面電車である車両は、低床式車両で停留所との段差も










少なく、静肅性に優れている言葉通りの乗り心地でした。

4車線道路の2車線を路線と停留所に割いてでも交通渋滞の解消につながっていることはすばらしい取り組みだと思う反面、市域も狭く本市では難しいことはわかりつつ楽しい気持ちで乗れました。行きは空いていた車両ですが、戻りは大量に運ぶ通勤通学の人で混んできたため、ドアが開くたびに降りては乗るを繰り返しながらで、最初と最後にICカードをタッチするのですがカメラが設置されているだけの無人のドア付近に不正乗車はないのだろうかとも心配になりました。

今回、補完する地域交通の重要性と、それらが地域からの希望により上がってきた方法が一番優れていると改めて感じながら、本市にはどのような方法が一番なのか、交通政策と福祉政策の両面での縦割りでない予算が可能なのかなどと思いをはせる時間になりました。



# 支出命令書 (一般)

市長 **	副市長 **	教育長 **	部長 **	次長 **	課長 	課長補佐 	係長 	担当者 
会計管理者 	会計課長 	課長補佐 **	係長 	担当者 	入力 	財政課台議 **	検収者 /	

起 票 日 令和 7年 9月 19日 所 属 080100 市議会事務局

年度 令和 7 年度 会計 01 一般会計 予算区分 0 現年度


科 目	款	01 議会費
	項	01 議会費
	目	01 議会費
	事業	040000 議会調査研究事業
	節	18 負担金、補助及び交付金
	細 節	90 その他
	細々節	06 政務活動費

金額	74,460 円	控 除	所得 税	0 円	タイムカード(出勤簿)確認
支払回数	15 回		雇用保険料	0 円	源泉徴収確認
負担行為額	600,000 円		そ の 他	0 円	被服貸与台帳記載確認
支出命令済額	406,390 円	請求書番号	控除額合計	0 円	通勤経路及び金額確認
負担行為残額	193,610 円				
源泉支払内容	*****				

件 名 10/8~10/10 栃木県宇都宮市 第87回全国都市問題会議参加旅費,

摘 要 井上議員

債 権 者 等	支払方法	21 現金払	支払希望日	令和7年 10月-7日
	住 所			
	名 称	市民未来の会代表者 野田 悦子		
	役職等/ 氏名			
	銀行 / 口座			
	口座名義人		債 権 者 番 号	

領 収	住 所		領 収 印 
	氏 名	市民未来の会代表者 野田 悦子	

上記の金額を領収しました。

支払済









令和 令和7年 10月-7日 泉大津市 会計管理者 あて



001 負担行為番号 07-000297  
 伝票番号 07-010371  
 整理番号 07-000004-15  
 呼出番号 00704926



07 01 01-01-01 04-00-00 18-90-06


供	議長	副議長	局長	次長	次長補佐兼 議事調査係長	庶務係長	主査	係員
覧								

別記様式第5号（第4条関係）

政務活動費交付請求書

令和7年9月19日

泉大津市長  
南出賢一様  
(泉大津市議会議長経由)

会派名 市民未来の会  
代表者名 野田悦子 

政務活動費交付請求書

泉大津市議会政務活動費の交付に関する規則第4条の規定により、下記のとおり政務活動費を請求します。

記

交付請求額	74,460円		
内 訳	10/8~10/10 栃木県宇都宮市 第87回全国都市問題会議参加旅費		
支払先	井上 信久		
予算科目	旅費	交付残額	193,610円
使用者名	井上 信久		

令和7年度

# 出張申請書

(出張)

会派名	市民未来の会		氏名	井上 信久				
出発・帰庁年月日		出発 令和7年10月8日		帰庁 令和7年10月10日				
出張先(順路) ライトキューブ宇都宮(栃木県宇都宮市宮みらい1-20)								
目的及び用件 第87回全国都市問題会議に参加								
区間	距離	運賃	料金	車賃	宿泊料	日当	食卓料	計
泉大津   (南海本線) なんば	km	円	円	円	円	円	円	円
		490						490
"   (大阪メトロ御堂筋線) 新大阪		290						290
"   (東海道新幹線) 東京	556.4		特急料金 (のぞみ) 5,810					5,810
"   (東北新幹線) 宇都宮	665.9		特急料金 (やまびこ) 3,040	閑散期 △ 200	2泊 30,000	3日 7,000		48,840
"   (線) 東京	109.5		特急料金 (やまびこ) 3,040	繁忙期 200				3,240
"   (線) 新大阪	556.4		特急料金 (のぞみ) 5,810	繁忙期 200				15,010
"   (線) 復路	665.9							780
"   (線)		780						780
"   (線)								
"   (線)								
"   (線)								
"   (線)							計	74,460
"   (線)								

10月9日の日当については、泉大津市職員旅費条例第23条及び同条例施行規則第4条の規定により支給しない。

主管課用









令和7年度

### 領収書兼旅費明細書

(出張)

会派名	市民未来の会		氏名	井上 信久				
出発・帰庁年月日	出発 令和7年10月8日		帰庁 令和7年10月10日					
出張先(順路)	ライトキューブ宇都宮(栃木県宇都宮市宮みらい1-20)							
目的及び用件	第87回全国都市問題会議に参加							
区間	距離	運賃	料金	車賃	宿泊料	日当	食卓料	計
泉大津   (南海本線) なんば	km	円 490	円	円	円	円	円	円 490
"   (大阪メトロ御堂筋線) 新大阪		290						290
"   (東海道新幹線) 東京	556.4		特急料金 (のぞみ) 5,810					5,810
"   (東北新幹線) 宇都宮	665.9 109.5	(往復割引) 9,000	(やまびこ) 3,040	閑散期 △ 200	2泊 30,000	3日 7,000		48,840
"   ( 線) 東京	109.5		特急料金 (やまびこ) 3,040	繁忙期 200				3,240
"   ( 線) 新大阪	556.4 665.9	(往復割引) 9,000	特急料金 (のぞみ) 5,810	繁忙期 200				15,010
"   ( 線) 復路		780						780
"   ( 線)								
"   ( 線)								
"   ( 線)								
"   ( 線)							計	74,460
"   ( 線)								
右の金額領収いたしました。				金額	¥ 74,460			
令和 年 月 日				職名	市民未来の会			
泉大津市会計管理者 殿				氏名	井上 信久			
								

□決 裁      ■供 覧

受発記号・番号		收受年月日	令和7年11月4日		
差出 名	井上 信久				
あて 名	泉大津市議会議長			提出期限	
收受文書の記号		收受文書の日付	令和7年10月31日		
件 名	報告書				
	議長	副議長	事務局長	次長	合
					
主 管	次長補佐兼 議事調査係長	庶務係長	主査	係員	議
					
処 理 上 の 意 見 及 び 注 意 事 項					
<p>日 時：令和7年10月9日（木）～令和7年10月10日（金）</p> <p>出張先：栃木県宇都宮市 ライトキューブ宇都宮</p> <p>目 的：第87回全国都市問題会議に参加</p>					

会派代表



# 報 告 書

令和7年10月31日

泉大津市議会議長 様

(会派名) 市民未来の会

出張者氏名 井上 信久



下記により出張しましたので、その概要について報告いたします。

## 記

1. 日 時 令和7年10月9日(木)～10月10日(金)
2. 出張先 栃木県宇都宮市  
ライトキューブ宇都宮
3. 目 的 第87回全国都市問題会議
4. 報告事項 次頁参照

## 報告事項

### 第87回 全国都市問題会議

成熟社会の都市のかたち ～コンパクトで持続可能なまちづくり～

#### < 基調講演 >

京都大学 名誉教授 広井 良典 氏

「人口減少・成熟時代のまちづくり」

基調講演では、成長から成熟へと移行する社会における都市のあり方を語られた。人口減少や高齢化を「衰退」と捉えるのではなく、ポジティブ心理学の視点から地域の“あるもの探し”を通じて、人のつながりや暮らしの豊かさを再発見する時代だと指摘した。

日本やアメリカでは自動車中心社会が長く続き、ヨーロッパでは街の中心部から自動車を排除し、都市は「通過するだけの場所」ではなく、人が歩いて楽しめる「ウォークブルシティ」への転換が進んでいる。

広場やベンチなど“座れる場所”が点在することにより、歩くことで街を感じることができ、人と人との自然な交流が生まれる。高齢者も無理なく歩き、ゆっくりと買い物や会話を楽しめる。市場や商店街が生活の中心にあり、地域の営みと文化を支えている。これこそが成熟社会の都市の理想像である。

日本でも香川県高松市の丸亀町商店街がその象徴である。アーケード内に休憩スペースやカフェを整備し、「買い物」だけでなく「滞在」を目的にした人の流れを生み出している。アメリカが郊外の巨大モールで経済を回すのに対し、ヨーロッパは街中にサードプレイス（居場所・たまり場）を配置し、人々の暮らしを中心に置く。

広井氏は、こうした発想を取り入れ、都市をコンパクトに再構築することが、持続可能なまちづくりの鍵だと説いた。「街を単なる移動空間ではなく、人が関わり合い、心が満たされる“場”として再設計することが、成熟社会の都市の使命である。」と語られた。

最後に基調講演では、人口減少を「衰退」ではなく「成熟」と捉え、地域の良さを掘り起こす発想の重要性を教えてくれた。自動車中心の社会から歩いて楽しめる「ウォークブルシティ」への転換、商店街や市場など人が集う“居場所”の価値を再評価する視点は、これからのまちづ

くりには欠かせない。量より質、効率より豊かさを重視する成熟社会のまちづくりの方向を実感した。

#### <主報告>

栃木県宇都宮市 市長 佐藤 栄一 氏

「人口減少社会に対応する都市の構造改革」～100年先も発展できる「ネットワーク型コンパクトシティ」の形成～

栃木県宇都宮市の佐藤栄一市長より、「人口減少社会に対応する都市の構造改革～100年先も発展できるネットワーク型コンパクトシティ（NCC）の形成～」をテーマに報告があった。

全国的な人口減少と高齢化、マイカー依存による郊外拡散で都市の非効率化が進む中、宇都宮市は「拠点を結ぶネットワーク構造」で持続可能な都市を目指している。中心市街地を「都市拠点」、旧町村などを「地域拠点」と位置づけ、鉄道・バス・地域交通を連携させ、生活・仕事・福祉・教育などの機能を分担。LRT「宇都宮ライトライン」を核に公共交通を再編し、再生可能エネルギー100%で運行する“ゼロカーボントランスポート”を実現した。開業から2年で利用者1,000万人を超え、自動車5,000台分の転換、沿線人口・地価の上昇、民間投資1,000億円超など経済・環境・健康面に多大な効果を生んでいる。さらに市独自の交通ICカード「totra(トトラ)」により運賃上限制度や乗継割引を導入し、誰もが移動しやすい環境を整備。今後はNCCを基盤に、「地域共生社会」「地域経済循環社会」「脱炭素社会」の三側面を融合させた“スーパースマートシティ”を構築する方針である。福祉・教育・子育て支援、女性活躍、スポーツ・観光振興を連動させ、市民が誇りを持って暮らせる都市モデルを創り、100年先も発展するまちを目指していると報告された。

#### <一般報告>

香川県高松市 市長 大西 秀人 氏

都市縮小時代の持続可能なまちづくり

—高松・丸亀町に見る都市の再生と自律性—

高松市の大西市長より、「都市縮小時代の持続可能なまちづくり—高

松・丸亀町に見る都市の再生と自律性―」をテーマに報告があった。

人口減少と高齢化が進む中、高松市は「拡大」から「再集約」への発想転換を行い、コンパクト・プラス・ネットワークの都市構造を推進している。これは、都市機能を中心部や地域拠点に集約（コンパクト）し、公共交通・地域コミュニティ・デジタル基盤で結び直す（ネットワーク）という考え方である。特に象徴的な事例が、中心市街地の丸亀町商店街の再生である。行政と地元商店街が一体となって再開発を進め、マンションや医療・子育て支援施設を導入した結果、空き店舗率は18%から5%に減少、歩行者数は約1.6倍に増加し、固定資産税等で年間約1.2億円の増収を実現した。市民と行政がビジョンを共有し、小さな成功体験を積み重ねたことが持続的な再生の鍵となった。また、鉄道新駅整備やバス・コミュニティ交通の再編により、拠点間の移動を改善。小学校区ごとの地域コミュニティ協議会を設け、市民自らが地域課題を解決する体制を整えている。さらに、デジタル技術を活用した「フリーアドレスシティたかまつ（FACT）」構想では、地理空間データやアプリを活用し、暮らしの利便性を高めている。文化面では、瀬戸内国際芸術祭や高松国際ピアノコンクールなどを通じて芸術・文化と産業の融合を進め、地域の誇りと交流人口を拡大している。大西市長は「行政主導でも民間任せでもない、“共創のまちづくり”こそが都市縮小時代を生き抜く鍵」とまとめ、持続可能な都市経営の新たな方向性を示された。

#### <パネルディスカッション>

鳥取県米子市 市長 伊木 隆司 氏

歩いて楽しいまちづくり

～公共交通と歩行者中心の持続可能なまち～

鳥取県米子市の伊木隆司市長は、「歩いて楽しいまちづくり～公共交通と歩行者中心の持続可能なまち～」をテーマに発表があった。

米子市では、バイパス開通による交通の利便化とともに、郊外への大型店舗の進出が進み、中心市街地の人流が減少した。これにより市民の移動手段は自家用車が中心となり、公共交通の維持が難しくなっている。こうした状況を克服するために、「車中心」から「人中心」へ都市構造を転換し、公共交通と徒歩による移動を軸とした“歩いて楽しいまちづくり”を進めている。単なるスローガンではなく、「歩くこと」や「公共交

通を使うこと」に“楽しさ”と“利便性”を加えることで、市民が自然に行動を変えられるまちを目指している。

まず「コンパクト・プラス・ネットワーク」という理念を掲げ、2019年に都市計画マスタープランを策定、2023年には「立地適正化計画」をまとめた。中心市街地と郊外を公共交通で結び、生活機能を集約させることで、少子高齢化に対応し、効率的で持続可能な都市経営を目指す。公共交通を「まちづくりを支える・使いやすく分かりやすい・くらしを支える」の三本柱に据え、地域住民と観光客の双方に利便性の高い交通体系を構築している。

市の中心部では、国土交通省の「まちなかウォークブル推進事業」を活用し、歩行者中心の空間整備を進めている。JR米子駅では、南北を分断していた線路をつなぐ自由通路「がいなロード」や駅南広場を整備し、歩行者の回遊性を向上。さらに、駅南地区の都市公園整備や、令和9年度完成予定の米子アリーナへのアクセス道路を含め、南北一体のまちづくりを展開している。また、角盤町商店街ではアーケードをリニューアルし、路面を美装化して車両通行を禁止。「ほこみち制度」を活用して、歩行者空間でのイベント開催やオープンカフェなどを促進し、「歩いて楽しいまち」の実現に近づけている。

交通政策では、循環型コミュニティバス「だんだんバス」を中心部で運行し、病院・公共施設・商店街を結ぶ。令和6年度には新たに「歴史コース」「まちなかコース」を追加し、交通系ICカード「ICOCA」対応で利便性を高めた。車体デザインもコースごとに分かりやすくし、市民や観光客に親しまれる存在となっている。郊外では、市街化調整区域の鉄道駅周辺に地区計画を導入し、規制緩和による新たな宅地開発や商業施設の立地を促進。JR境線・河崎口駅周辺では、農地を転用して39区画の住宅地とスーパーマーケットが整備され、若年世帯の定住促進につながっている。

さらに、弓浜地区では高齢化に対応した巡回型コミュニティバス「よねぎーバス」を実証運行。地域住民へのヒアリングを重ねて運行ルートを決定し、既存のバス路線と接続させることで移動利便性を向上させた。今後は市内他地域にも拡大し、鉄道・バス・地域交通を連携させた“市全体の交通ネットワーク化”を進める方針である。

また、深刻な運転手不足への対策として、全国でも先進的に「自動運転バス」の導入に挑戦している。2025年12月からは、JR米子駅と鳥取大学医学部附属病院を結ぶ区間で実証運行を開始予定。段階的にまちなかや郊外バス路線へ拡大し、将来的には完全自動運転（レベル4）化を目指す。これにより、交通の持続性確保だけでなく、新たな雇用や関連産業の育成など地域経済の活性化も期待される。

伊木市長は「車中心の社会からの転換は時間を要するが、今こそ最初の一步を踏み出すべき時だ」と強調。歩くことや公共交通の利用を“義務”ではなく“楽しみ”に変えるまちづくりこそ、持続可能な都市を次世代に引き継ぐ鍵であると結んだ。

最後に本市も面積が小さい中で中心市街地・住宅地・湾岸エリアなどが分散しており、まさに“ネットワークで結ぶ都市経営”が求められている。宇都宮市のように、鉄道駅や幹線バス沿線を拠点とし、そこに「働く・学ぶ・憩う」機能を集約させることで、歩いて暮らせる・歩いて楽しめるまちを実現できるのではないかと考える。

例えば、泉大津駅周辺に商業・居住・子育て支援機能を集中させ、助松地区、条東地区、条南地区、浜街道地区、旭地区、穴師地区、フェニックス地区を地域拠点としてつなぐ「小さなNCCモデル」を描くことができるのではないかと考える。

また、宇都宮市のLRTに相当する新たな交通インフラを整備することは難しいが、泉大津では既存の南海線・バス・自転車・徒歩を組み合わせた回遊型モビリティを再構築することで、市民の移動の自由度を高められる。地域拠点間のアクセス性を上げることで、高齢者や子どもも安心して活動できる環境が生まれる。

今回の学びを「コンパクトシティ」としての街づくりに活かしたい。

以上